

## 基本計画部会における次期基本計画に係る審議の整理メモ

審議テーマ	現行基本計画の該当項目
交通に関する統計の体系的整備	<p>① 物流の効率化を輸送モード横断的に評価するため、輸送貨物品目分類の統一及び品目別輸送量の把握を行う。(国土交通省、平成28年度末までに実施する)</p> <p>② 環境に関する基礎統計の整備として、関係府省と連携を取りながら内航海運や自動車における燃料消費量を把握する統計の精度向上に取り組む。(国土交通省、平成28年度末までに実施する)</p> <p>③ 自動車輸送統計を総合的に活用するため、輸送量に加え、ロードファクター（積載効率、実車率等）の把握とともに、他の輸送統計や行政記録情報の活用も含めて体系的整備を行う。(国土交通省、平成28年度末までに体系的整備に向けた考え方の結論を得る)</p>
これまでの統計委員会の意見	
各種研究会等での指摘	
担当府省の取組状況の概要	<p>① 自動車輸送統計調査及び内航船舶輸送統計調査（いずれも基幹統計調査）について、陸上輸送及び海上輸送の比較可能性の向上等の観点から、輸送貨物品目分類の見直しを行い、平成27年度の調査から適用した。港湾調査についても品目分類の見直しを行い、平成30年1月分調査から適用する予定である。</p> <p>② 内航船舶輸送統計調査については燃料消費量の精度向上のため、平成27年度の調査から、従前の月間総輸送量に加えて新たに月間総燃料消費量についても目標精度（5%）を設定した標本設計により、調査を実施した。自動車燃料消費量調査についても、平成28年度の調査から、従前の原単位に加えて新たに月間総燃料消費量について目標精度（5%）を設定した標本設計により、調査を実施した。</p> <p>③ 自動車輸送統計調査については、貨物営業用については最大積載量別、また、旅客営業用乗合については一般路線・高速路線別の実現可能性を確認するため、平成27年9月から11月の間、自動車輸送統計予備的調査を実施し、「自動車輸送統計調査の体系的整備に向けた分析・検討に係る委員会」を平成28年9月に設置し、この調査の検証結果について議論を実施したところ、貨物営業用における最大積載量別の輸送実績の一部（輸送トン数等）及び旅客営業用乗合における輸送実態（一般路線・高速路線）別の輸送実績の再現について実現可能であることを確認した。平成29年度は、貨物営業用における最大積載量別の輸送実績の一部（輸送トンキロ等）について、より統計精度の高い数値の実現可能性を検証すべく、予備的調査を実施する予定である。平成30年度においては予備的調査の結果の分析を実施し平成32年度新調査実施のため新たな調査手法の確立を行う予定である。</p>

<p><b>次期基本計画における取扱い及び基本的な考え方(案)</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ①及び②については、順次必要な対応措置を講じているものと評価されることから、次期基本計画に盛り込む必要性は乏しいのではないか。</li> <li>○ ③については、平成28年度末までに結論を得る課題であったが、国土交通省における検討の結果、さらに平成29年度に予備的調査を実施し、その結果を踏まえて調査手法を検討し、平成32年度から新たな調査手法を導入する計画であるため、引き続き次期基本計画に盛り込み、取組の促進を図ることが必要ではないか。</li> </ul> <p>&lt;基本的な考え方&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 国土交通省は、統計精度の向上を図るため、自動車輸送統計調査について、平成29年度に実施する予備的調査、他の輸送統計及び行政記録情報の活用も含めて分析・検討を行い、平成32年度から新たな調査手法による調査を開始する。</li> </ul>
<p><b>備考(留意点等)</b></p>	